

「湖（うみ）の駅」事業計画について

琵琶湖汽船

1. 「湖の駅」とは

都市再生本部の第6次都市再生プロジェクトのうち「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」の中で、水辺の積極的な活用を図るため、「川の駅」「湖の駅」の検討を進めることとされた。「湖の駅」は、湖と人とを結ぶ駅づくりであり、湖岸のまちづくりが基本であり、水辺空間の再生・創出、船運の活用、道の駅と同様の地元との交流の場、歴史的町並みとの連携が図られる場であり、そのためには法的規制緩和も求められている。

湖都・大津において、大津港が整備されて久しいが、琵琶湖観光の拠点とはなっているものの、大津観光との連携が少ないことが問題とされている。中心市街地活性化の検討の中で、観光を一つの軸として大津港がそのエリアに含まれようとしている。その際、観光客の立ち回り先としての「道の駅」に代わる存在として、「湖の駅」の整備が考えられる。

また、かつて大津は、東海道随一の宿場であったとともに「大津百艘」の港町として近江・北国の物資の集積地であった歴史をコンセプトとする。

2. 「湖の駅」の機能

大型観光バス、自家用車の立ち寄り及び購買を主な目的とするため、大津、琵琶湖および周辺地域の農産品・加工品及び物産の販売、地元食材を使った飲食の提供、大津及び琵琶湖の観光案内・大津観光及び琵琶湖観光の基地機能を併せ持たせるとともに、エコセンター構想とも連携を取り、「琵琶湖を生かす観光と環境共生のまちづくり」の中核機能を持たせる。

また、駐車場、京阪電車（パーク&ライド）を活用して京都観光との連携により集客を図る。

3. 事業概要

- ① 場所：浜大津アーカス2F（店舗部分）
- ② 施設：地元農産品・加工品（地産地消）の販売コーナー、フードコーナー（近江米使用）イベントスペース、観光情報等案内コーナー
- ③ 面積：全体約290㎡、販売飲食面積約240㎡（土、日祝はワゴン販売⇒ボードウォーク）
- ④ 駐車場：アーカス駐車場・大津港駐車場（バス）の活用。多客時は港湾業務用地を使用

4. 連 携

《各種団体》

- ① 農産物：NPO、農業法人、JA等
- ② 物産：地元商店街、各物産協会
- ③ 情報：びわ湖大津観光協会、大津商工会議所、NPO
- ④ 集客：びわ湖大津観光協会、浜大津観光協会、大津商工会議所、京都商工会議所観光部会、京阪電鉄、琵琶湖汽船、まちづくり協議会
- ⑤ 事業：株まちづくり大津、大津市、近畿経済産業局

《連携事業》

- ① e湖都市場との連携
大津の商業の情報発信の機能＝e湖都市場のリアルサイトとしての機能を持つ。
- ② パーク&ライド事業との連携
- ③ 社会教育会館、びわ湖ホール、オープンカフェ、大津百町PJ

5. 事業の仕組み

『大津市中心市街地活性化計画における琵琶湖湖畔活用エコツーリズム事業』

平成20年12月5日 大津市中心市街地活性化協議会承認

①補助金

戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金（1/2）⇒経済産業省採択済補助金交付決定済

②事業の目的

基本計画のうち「琵琶湖岸の活用」により、活性化の目標である「琵琶湖湖岸・港における集客交流機能の強化」を具体化し、琵琶湖観光客数の増大を実現するため。

③事業主体

琵琶湖汽船グループ

④事業開始年度

平成21年度（平成22年3月中旬予定）

6. 事業費及び売上予想

①事業費：56,700千円

②売 上：85,000千円

来場者：16万人

（朝市による農産品等は売上ベースでなく、ワゴン貸出し料を売上に計上）

参考（19年度）

・米プラザ 売り場面積720㎡

販売額350百万円（486千円/㎡） 客数35万人 客単価1千円

・藤樹の里 あどがわ 売り場面積570㎡

販売額450百万円（789千円/㎡） 客数55万人 客単価0.8千円

・母ちゃんハウスだすこ（JAいわて花巻） 売り場面積558㎡ ※

販売額606百万円（1,086千円/㎡） 客数38万人 客単価1.5千円

※ は2002年度

以 上



